

## 【専門分野】

## 【理学療法学科】

科目名	理学療法概論						
担当講師	佐藤浩哉						
実務経験の概要	医学博士，理学療法士，医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義/演習						

## 授業概要

1. 理学療法の概要について学習します。
2. 理学療法士の社会的役割と必要とされる資質について学習します。
3. 理学療法士としてのキャリアラダーについて学習します。
4. 理学療法士に関わる業務、各種法律・制度、業務管理、職能について学習します。
5. 理学療法士業務に関わる制度や教育・研究について学修します。
6. 社会における理学療法士の組織や職能について学修します。

## 学修到達目標

1. 理学療法士の概要が説明できる。
2. ICDHとICFを説明できる。
3. ノーマライゼーションとIL運動，QOLの概念・考え方が説明できる。
4. 理学療法（士）に関連する法律を理解できる。
5. 理学療法士に関わる業務および業務管理について説明できる。
6. 理学療法に関わる各種法律・制度，職能について説明できる。
7. 理学療法士に関わる各種制度とその領域における役割を理解し、述べるができる。

## 授業計画

- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 第1回  | 理学療法士に求められるもの         |
| 第2回  | 国家試験合格へのロードマップ        |
| 第3回  | 理学療法のイメージ             |
| 第4回  | リハビリテーション医学の語源・概念・定義  |
| 第5回  | ノーマライゼーション・IL運動・QOL   |
| 第6回  | ICDHとICF 1            |
| 第7回  | ICDHとICF 2            |
| 第8回  | 理学療法の歴史・法律・対象 1       |
| 第9回  | 理学療法の歴史・法律・対象 2       |
| 第10回 | 理学療法の方法 1             |
| 第11回 | 理学療法の方法 2             |
| 第12回 | 理学療法士に求められる資質とキャリアラダー |
| 第13回 | 理学療法の組織と教育            |
| 第14回 | 理学療法の方法 3             |

- |      |               |
|------|---------------|
| 第15回 | 個人情報保護法       |
| 第16回 | 理学療法士に求められる資質 |
| 第17回 | 理学療法士のキャリアラダー |
| 第18回 | 個人情報保護と権利擁護   |
| 第19回 | 医療分野の理学療法     |
| 第20回 | 地域理学療法        |
| 第21回 | 理学療法と研究       |
| 第22回 | 振り返り          |
| 第23回 | 試験解説          |

### 評価方法

筆記試験

### 教科書

理学療法概論 第4版（神陵文庫） プリント資料

### 参考図書・文献

特になし

### 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法に対する理解を深めてください。

## 【専門分野】

## 【理学療法学科】

科目名	理学療法評価学Ⅰ						
担当講師	及川真人 長野由紀江						
実務経験の概要	及川真人 : 保健医療学博士, 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する. 長野由紀江 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する.						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/オムニバス						

## 授業概要

理学療法を実践するために必要な理学療法評価の目的・過程・技術を学修します。

## 学修到達目標

1. 理学療法評価の目的, 過程を説明することができる.
2. 理学療法評価に必要な基本的な評価技術を理解し実践できる.

## 授 業 計 画

第1回	理学療法評価の基礎① (意義・目的 過程)	及川真人
第2回	理学療法評価の基礎② (対象・構成要素)	及川真人
第3回	理学療法評価の基礎③ (統合と解釈 目標設定、プログラム立案)	及川真人
第4回	理学療法評価の基礎④ (評価の進め方、記録)	及川真人
第5回	情報収集① (医療面接)	及川真人
第6回	情報収集② (他部門 カルテ情報収集)	及川真人
第7回	バイタルサイン①	及川真人
第8回	バイタルサイン②	及川真人
第9回	形態測定①	長野由紀江
第10回	形態測定②	長野由紀江
第11回	形態測定③	長野由紀江
第12回	関節可動域測定①	長野由紀江
第13回	関節可動域測定②	長野由紀江
第14回	関節可動域測定③	長野由紀江
第15回	筋力測定①	長野由紀江
第16回	筋力測定②	長野由紀江
第17回	反射検査①	長野由紀江
第18回	反射検査②	長野由紀江
第19回	知覚検査	長野由紀江
第20回	知覚検査	長野由紀江

第21回 姿勢・バランス評価①  
第22回 姿勢・バランス評価②  
第23回 動作分析

長野由紀江  
長野由紀江  
長野由紀江

### 評価方法

筆記試験（80%） 実技試験（20%）

### 教科書

リハビリテーション基礎評価学（羊土社）

### 参考図書・文献

特になし

## 【専門分野】

## 【理学療法学科】

科目名	基礎理学療法学						
担当講師	長野由紀江						
実務経験の概要	理学療法士，医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

## 授業概要

理学療法を実践する上での目的・原理・効果など基礎知識や技術を学修します。

## 学修到達目標

1. 運動療法の目的・原理・効果など概要を説明できる。
2. 運動療法の基本的技術を理解し、実践できる。

## 授 業 計 画

- |      |                             |
|------|-----------------------------|
| 第1回  | 運動療法の基礎知識①（運動が生体に及ぼす影響）     |
| 第2回  | 運動療法の基礎知識②（運動が生体に及ぼす影響）     |
| 第3回  | 運動療法の基礎知識③（運動療法の定義・手段・特性）   |
| 第4回  | 運動療法の基礎知識④（筋収縮と関節運動）        |
| 第5回  | 運動療法の基礎知識⑤（基本動作）            |
| 第6回  | 運動療法の基礎知識⑥（運動療法の効果・禁忌・二次障害） |
| 第7回  | 運動療法の基礎知識⑦（順序・基礎原理・運動とストレス） |
| 第8回  | コンディショニング・ポジショニング           |
| 第9回  | 関節運動トレーニング①                 |
| 第10回 | 関節運動トレーニング②                 |
| 第11回 | 関節運動トレーニング③                 |
| 第12回 | 筋力増強トレーニング①                 |
| 第13回 | 筋力増強トレーニング②                 |
| 第14回 | 筋持久力トレーニング①                 |
| 第15回 | 筋持久力トレーニング②                 |
| 第16回 | 呼吸トレーニング①                   |
| 第17回 | 呼吸トレーニング②                   |
| 第18回 | 中枢神経疾患障害の運動療法①              |
| 第19回 | 中枢神経疾患障害の運動療法②              |
| 第20回 | 機能統合トレーニング①                 |
| 第21回 | 機能統合トレーニング②                 |
| 第22回 | 機能統合トレーニング③                 |

**第23回** 機能統合トレーニング④

**評価方法**

筆記試験（100%）

**教科書**

運動療法学テキスト（南江堂）

**参考図書・文献**

特になし

**履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)**

基礎理学療法学を学ぶ上では解剖学・生理学・運動学の知識が重要となるため、復習に心がけましょう。

科目名	生活活動学I						
担当講師	中嶋奈津子						
実務経験の概要	理学療法士、医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義/演習						

### 授業概要

1. 対象者の生活を支える日常生活活動の概念、構成について学修します。
2. 日常生活活動の基盤となる基本動作の介助について学修します。
3. 対象者の生活活動における理学療法の役割を学修します。

### 学修到達目標

1. 生活活動の概念及び日常生活活動の概念、構成を理解し、述べることができる。
2. 基本動作の過程と介助、指導方法を述べるができる。
3. 対象者の生活活動課題を理解し、課題解決するための理学療法の必要性について述べるができる。

### 授 業 計 画

- |      |                            |
|------|----------------------------|
| 第1回  | 日常生活活動の概念                  |
| 第2回  | 日常生活活動とICF                 |
| 第3回  | 日常生活活動とQOL                 |
| 第4回  | ADL評価の概要①                  |
| 第5回  | ADL評価の概要②                  |
| 第6回  | ADL評価の概要③                  |
| 第7回  | ADL評価の概要④                  |
| 第8回  | 基本動作について①概要                |
| 第9回  | 基本動作の過程と介助②（寝返り動作・起き上がり動作） |
| 第10回 | 基本動作の過程と介助③（座位・立ち上がり動作）    |
| 第11回 | 基本動作の過程と介助④（移乗動作）          |
| 第12回 | 基本動作の過程と介助⑤（移乗動作）          |
| 第13回 | 基本動作の過程と介助⑥（立位・歩行）         |
| 第14回 | 基本動作の過程と介助⑦（歩行）            |
| 第15回 | 基本動作の過程と介助⑧（移動補装具と歩行）      |
| 第16回 | 基本動作の過程と介助⑨（移動補装具と歩行）      |
| 第17回 | 身の回り動作について ①食事動作           |
| 第18回 | 身の回り動作について ②トイレ動作          |

- 第19回 身の回り動作について ③更衣動作  
第20回 身の回り動作について ④整容動作  
第21回 身の回り動作について ⑤入浴動作  
第22回 ADLを支援する機器  
第23回 住宅環境整備

#### 評価方法

筆記試験

#### 教科書

日常生活活動学テキスト(南江堂)・プリント教材

#### 参考図書・文献

特になし

#### 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性があります。

## 【専門分野】

<b>科目名</b>	臨地実習					
<b>担当講師</b>	佐藤浩哉 菊池賢汰 長野由紀江 及川龍彦 中嶋奈津子 及川真人					
<b>実務経験の概要</b>	佐藤浩哉 : 医学博士, 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験あり。 菊池賢汰 : 保健学博士, 理学療法士, 医療施設・スポーツ施設において実務経験あり。 長野由紀江 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士, 医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。 中嶋奈津子 : 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。 及川真人 : 保健医療学博士, 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。					
<b>履修年次</b>	1	<b>単位数</b>	1	<b>時間数</b>	45	<b>開講時期</b>
<b>授業形態</b>	実習					

### 授業概要

介護保険サービス提供施設における対象者の生活に関する調査, 関わる全ての方々とのコミュニケーションを通じ, 理学療法業務への理解を深める。

### 学修到達目標

1. 前職業人としての礼儀やマナーを理解し, 対象者および指導者、職員とのコミュニケーションができる。
2. 対象者との交流を通じ, 対象者の日常生活を把握し, その課題や解決する対策を考察できる。
3. 理学療法士の目指すことを確認することで, 学習において意欲を持って取り組むことができる。

### 授 業 計 画

**実習期間** 令和8年度9月14日（月）から9月18日（金） 5日間

**セミナー期間** 令和8年度9月24日（月）から9月28日（水） 3日間

**実習施設** 介護保険領域施設（介護老人保健施設・通所施設）

#### 実習内容

1. 対象者および指導者・職員と交流を図る。
2. 対象者の生活状況について聴き取りを行い, 生活の課題と要因・解決方法を整理し, 報告書を作成し, 振り返りを行う。
3. 臨床見学や業務を手伝うことによって, 理学療法士の業務と役割を理解する。
4. 社会人としての基本的態度を理解し, 実践する。

**実習後セミナー** 1. 経験した実習内容をもとに, 理学療法士の役割, 業務内容, 多職種との違いを話し合う。

理解を深める.

2, 実習を振り返り, 理学療法士を目指す学生として必要な学修内容をグ  
を高める.

3, 生活調査票をもとに症例検討を行い, 対象者の生活状況や課題の理解を

### 評価方法

提出課題 (70%) 実習生評価記録 (30%)

### 教科書

特になし

### 参考図書・文献

特になし

### 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学内での学修に励み, 別に発行される「臨地実習・地域理学療法導入実習のしおり」を熟読

**【理学療法学科】**

務経験を有する。  
実務経験を有する。

を有する。  
する。  
有する。

前期

コミュニケーションや体験

ーションを図ることが  
することができる。  
ができる。

去を考察し、調査票に

する。

いなどグル-

ーワーク

深める.



売したうえで望んでく